

青島日本商業會議所 經濟週報

第三百三十一號

中華民國政特准掛號 認爲新聞紙類 大正十四年十二月七日發行 每週月曜日

本號記事

- 膠濟鐵路調查報告(其六) 徐海延長線之高徐線價值の増減 山東の落花生貿易 支那案による關稅増徴の使途 膠濟鐵路收入減(十一月) 山東桐材輸出狀況(十一月) 青島桐材組合臨時總會 濟南棉花市況 銀塊並爲(自十一月廿三日至廿八日) 商況(司) 日本行船積込貨物表

膠濟鐵路狀況調查報告 (其六)

機務之部

一、機關車 接收當時全線存在の機關車は二百〇三輛にして其型式左の如し 六聯式 入換用 (原ハシツクス、カッパルド) 九輛 大六聯式 入換用 (原ハシツクス、カッパルド、ラデアル) 十三輛 十聯式 旅客列車用一七 混合列車用一三 (原モタルフオー、一) 三十三輛 輕快式 混合列車用 (原モタルフオー、一) 四輛 八聯式 貨物列車用 (原名エイトカッパルト) 三輛 凝結式 貨物列車用 (原名コンソノンデーション) 三十五輛 太平洋式 旅客列車用 (原名ハシツクス) 八輛

工場に轉送し修理せむるに工場内には修理を待つる車輛多數あり材料亦必要に臨みて供給を受くる能はず之等の爲入場車未だ出場せざるに損傷車輛續々至るの狀なり、嗣て四方工場に於ては晝夜兼行修理に努力したれば一年以來運行に堪ゆる機關車數漸次増加し來り現に約八十餘輛を算ふるに至れり、日本時代に購入契約を了し昨年到着したる六輛を除くも三十餘輛運行可能車を増加したる次第なり、然れども他面軌道輕小、橋梁薄弱にして凝結式及太平洋式機關車を全線何れの區間にも自由に行使する能はざれば牽引力の全部を盡くして客貨運輸に利用するを得ず之が爲十分なる發達を遂げざる次第にて一例を客車輸送に就て言わば二三等旅客非常に雜鬧するに依り車輛を増結せんと欲せばJ型(十輪式)機關車の牽引力に制限せられ若しP型(太平洋式)機關車を用ひんとせば橋梁薄弱なるを以て其載重に堪えざる如し、貨物用機關車に至りては接收當時既に損傷車輛過多にして修理も充分及ばざる爲途中機部の破損續出し盈空車輛の定數を連結する能はざる場合數々現るゝとして一區間の運輸遲延は全線に影響を及ぼすに至る等は機關車の供給が要求に應せざりし状態なりとす

二、貨車 貨車總數二千百十五輛其種類左の如し 有蓋車 三百八十八輛 石炭車 五百六十三輛 コークス車 七十五輛 石灰車 二十輛 離側車 九十八輛 動物車 一輛 鮮魚車 三輛 油槽車 三輛 三十噸無蓋車 三十四輛 三十噸石炭車 三百八十九輛 三十噸礦石車 五十輛 三十噸油槽車 三輛

其中還付以前に於て修理未済と破損使用に堪えざるもの及特別用途の車輛を除く其他の車輛に對し四日を以て一循環するものとして計算するに毎日配給し得る車輛數は僅に有蓋車八十二輛、無蓋車及石炭車三百輛を有するに過ぎず車輛既如此此缺乏するに沿線の貨物出廻は逐日増加の傾向を呈し車輛の供給が需用に追隨せざるが故配給上極て困難を感じつゝあり更に機關車の破損するもの日に甚しき爲牽引力不足して貨車の運用に支障を及ぼし自然循環日數延長するに至る、此れ貨車不足に原由する運輸上の影響なり

Table with 4 columns: Year (1900-1914), Vehicle Type (e.g., 六聯式, 十聯式), and Quantity. Title: 機關車增加年度別並其型別一覽表

機関車經過年齡表 平均可能使用年齡二十五歳を以て計算 尚使用可能年數 輛數 別 一、太平洋式(原名ハシツクス) 二、凝結式(甲)(原名コンソノン) 三、凝結式(乙)(原名シツクス) 四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 十、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 十一、凝結式(癸)(原名ハシツクス) 十二、凝結式(甲)(原名ハシツクス) 十三、凝結式(乙)(原名ハシツクス) 十四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 十五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 十六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 十七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 十八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 十九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 二十、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 二十一、凝結式(癸)(原名ハシツクス) 二十二、凝結式(甲)(原名ハシツクス) 二十三、凝結式(乙)(原名ハシツクス) 二十四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 二十五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 二十六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 二十七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 二十八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 二十九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 三十、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 三十一、凝結式(癸)(原名ハシツクス) 三十二、凝結式(甲)(原名ハシツクス) 三十三、凝結式(乙)(原名ハシツクス) 三十四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 三十五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 三十六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 三十七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 三十八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 三十九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 四十、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 四十一、凝結式(癸)(原名ハシツクス) 四十二、凝結式(甲)(原名ハシツクス) 四十三、凝結式(乙)(原名ハシツクス) 四十四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 四十五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 四十六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 四十七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 四十八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 四十九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 五十、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 五十一、凝結式(癸)(原名ハシツクス) 五十二、凝結式(甲)(原名ハシツクス) 五十三、凝結式(乙)(原名ハシツクス) 五十四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 五十五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 五十六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 五十七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 五十八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 五十九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 六十、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 六十一、凝結式(癸)(原名ハシツクス) 六十二、凝結式(甲)(原名ハシツクス) 六十三、凝結式(乙)(原名ハシツクス) 六十四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 六十五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 六十六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 六十七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 六十八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 六十九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 七十、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 七十一、凝結式(癸)(原名ハシツクス) 七十二、凝結式(甲)(原名ハシツクス) 七十三、凝結式(乙)(原名ハシツクス) 七十四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 七十五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 七十六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 七十七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 七十八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 七十九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 八十、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 八十一、凝結式(癸)(原名ハシツクス) 八十二、凝結式(甲)(原名ハシツクス) 八十三、凝結式(乙)(原名ハシツクス) 八十四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 八十五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 八十六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 八十七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 八十八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 八十九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 九十、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 九十一、凝結式(癸)(原名ハシツクス) 九十二、凝結式(甲)(原名ハシツクス) 九十三、凝結式(乙)(原名ハシツクス) 九十四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 九十五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 九十六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 九十七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 九十八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 九十九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 一百、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 一百〇一、凝結式(癸)(原名ハシツクス) 一百〇二、凝結式(甲)(原名ハシツクス) 一百〇三、凝結式(乙)(原名ハシツクス) 一百〇四、凝結式(丙)(原名ハシツクス) 一百〇五、凝結式(丁)(原名ハシツクス) 一百〇六、凝結式(戊)(原名ハシツクス) 一百〇七、凝結式(己)(原名ハシツクス) 一百〇八、凝結式(庚)(原名ハシツクス) 一百〇九、凝結式(辛)(原名ハシツクス) 一百一〇、凝結式(壬)(原名ハシツクス) 一百一〇六

一九〇七	——	——	——	——
一九〇八	——	——	——	——
一九〇九	——	——	——	——
一九一〇	——	——	——	——
一九一一	——	——	——	——
一九一二	——	——	——	——
一九一三	——	——	——	——
一九一四	——	——	——	——
一九一五	——	——	——	——
一九一六	——	——	——	——
一九一七	——	——	——	——
一九一八	——	——	——	——
一九一九	——	——	——	——
一九二〇	——	——	——	——
一九二一	——	——	——	——
一九二二	——	——	——	——
一九二三	——	——	——	——
一九二四	——	——	——	——
合計	九三	四三	七六	七三

四、機關車及客貨車修理狀況
 昨年接收以來今日に到る迄に修理したる車輛、機關車九十一輛、客車二百五十二輛、貨車一千〇八十五輛、合計一千四百二十八輛にして此外組立新機關車六輛、新造三等客車四輛、車掌車五輛等なり、又近く落成するものに一、二等客車二輛、三等客車一輛あり、目下製造中六月末に完成するものに三十噸貨車三十輛あり、改造中六月末出場し得るもの二三等客車四輛、車掌車一輛(客車一輛は獨逸時代の舊車輛、他のものは頃日辛店驛にて罹災したるもの)あり、現在入場中のものには機關車十五輛、客貨車百五十二輛等あり、査するに日管時代の本工場毎月修理能力は機關車七八輛、客貨車百輛なりしが接收以來現在に至る毎月の修理車輛は機關車平均六輛半、客貨車八十五輛に當り兩者工作能率の比較に於て日管時代より稍遜色あり、其減少の原因數種あり左の如し

徐海延長線と

高徐線價値の増減(其三)

道濟延長線

道濟延長線は濟南、道口鎮間百二十哩の敷設によりて頭足無き九十哩の道清鐵道は活氣を得一躍膠濟鐵道を通したる四

五百十哩の橫斷幹線を形成し西端孟縣は黃河の舟運に呼吸し東端遙かに青島の港灣と首尾相應して百貨の來往殷盛を極むるは必定なり若し更に清化鎮より一進山西の澤州に出つれば鐵、石炭の無盡蔵と稱せらる支那の寶庫は世界に向つて開扉さるへし之より再轉南西に走りて黃河の最狭部を渡り滄州に於て海蘭鐵道と連絡するとき青島より一路蘭州に速達する大幹線を現出す之れ道濟線の重要關鍵視ざる所因なるか翻て高徐線の如何を考へ本豫定線は道濟線と不可分の性質を有し其敷設は同時に行ふべきを説けり由來鐵道の效用を發揮せしむる爲には其一端を海口に延長し海陸の交通聯絡を利便にするに於て殆めて全きを望むべし海口に達せざる鐵道は頭首無き均しく他の接續鐵道は營養を供給することあるも自體本來の使命に生くる能わすして終るべし今頭首無き臨海鐵道が海州に其一端を延長し來れるは自の生命に生きんか爲に外ならず然れども鐵道自体の有する延長と頭首たる港灣の設備が相適合するに於て遺憾なき生長を望み得べきも貨物の攝取口に當る港灣の施設が狭少に失して龐大なる體軀を養ふに足らずとせば其活動遂に望む可からずとす想ふに海州は將來の延長千數百哩に達する大鐵道にして現在既に四百哩に近き開業線有する海蘭鐵道の海口として如何の狀にありや説者或は將來の築港を吐調すべきも鐵道の延長か一日に成らざるか如く築港も亦之か完成迄には幾億の巨資と長き年月を必要とす之を敷衍して曰へば「ジンベル」氏案による築港費は一億元と計上される最近和蘭國技師「スタテウ」氏の説に聞けば他の設計案を以てするも尙五千万元以上を要すべしと稱せり築港工作費のみにて斯の如き巨額を要する以外市街の建設倉庫の布置其他通商港としての一切必要機關を具備せしめんには其直接間接に所

要する、費額の龐大なると永年に亘る努力とは蓋し世人の想像するべくも非ざるものあり然るに海州は徐海線の開通を遂けたる今日何等施設する所もなく而も其築港は次章に述ぶる如く頗る實現性に乏しきに於て究極海蘭鐵道を活さんと欲せば高徐線を急設して青島港に出口を求むるの賢なるに及かず交通路の狀形を見るに海蘭鐵道と膠濟鐵道とは高徐延長線によりて必然的に一形體を爲し彼此其長短を補ふて共に發達すべき運命を有するものなり
 即ち延長されたる膠濟鐵道は山西を通過して滄州に海蘭鐵道と合体し一方滄州以東河南を通過して東漸したる海蘭線は高密に來つて膠濟鐵道に會するに依りて事實上膠濟鐵道の高密青島間を復線とするに依りて事以東復線となり青島に來つて海に出するものなり普通鐵道の復線と稱するに同一其床上に併行するを例とすれども海蘭膠濟兩鐵道の場合は滄州より以東南北に展開し兩者軌道間に黃河を挟みて東走し黃河盡くるの地に至るや再び同床に併行するの相違あるのみ是れ兩延長線を不可分の關係に立つと稱する所因なり見來れば徐海延長線開通は海州の築港伴ならざる限り高徐線の價値に何等の影響を齎らざるのみならず久敷塾居俊巡徒らに京漢津浦兩鐵道の營養線に甘んじ來りし海蘭鐵道は漸く生氣を喚起し差當り徐海延長線によりて意氣を見せんとするときは高徐線の價値は益々増大されたるものにして將來海蘭鐵道發達の鍵は一に懸りて高徐延長線の達成に在りと謂ふべし

第五章 支那の立場より見たる海州築港の要否

海州築港論の抬頭したるは獨逸國の競争勢力が青島に根據し免もすれば自國の進路を控制するに恐れあり此情勢に對應すべく海蘭鐵道を挟みて露國の進めたる

畫策なりとす歐戰中露國の勢力消滅し次第で青島の獨逸勢力が日本の勢力と變るに及んで支那は更に日本勢力伸張の鬼影に恐怖し一種の日本控制策として海蘭築港を提唱したる形跡無きに非ざりしか日本も亦青島及膠濟鐵路より撤退し海蘭膠濟兩鐵路及青島の主權が完全に回收し得たる支那に在りては海州築港論の如き夙に忘却し腦裏に非ざる筈なり畢竟海州の築港なるものは露對獨若しくは日對支等の競争對照ありての產物にして何れとも其對照者を失ひたる場合該問題は自然消滅するは當然なり嘗て交通部當事者の談によれば本築港計劃は疾く放棄されたる處なるも借款關係による諸掛と情勢にて今に於ても思ひ出したるもの如く時々提唱するものなりと之れ箇中の眞情なるべし茲に筆者の稱する築港とは海州の場合其規模施設が延長千餘哩を有する大鐵道の海口として遺憾なく設備されるを指すものにして此深きに伴はざる築港などは例令實施さるるとしても何等顧慮の要無く從つて論議の價値なきものなり

山東の落花生貿易

山東省内に於ける落花生産額は何等據るべき材料無きも數年前既に五百萬担説有力となり殊に其品質優良にして他省に冠絶し殆んど支那産落花生の代表的産地として著名となれり販路は世界各國到らざるなく年々輸出は旺盛を續け遂に大正十三年中落花生實二百二十五萬二千七百四十五担、殼付三十九萬七千四百四十五担、花生油四十九萬八千六百九十九担にして三品合計價格は銀換算三千七百九十六萬七千余元に達し青島港輸出貿易品中に於て冠絶せる成績を収め輸出重要品の首位を占むるに至れり之によりて山東省内落花生産額を豫想するに實、殼付、油の三品を合計すれば其總計四百二十六萬八千八百担を計算され從來の五百萬担の豫想は全く裏切られたるの感なきに非ず前記の數

量に依つて鐵路他省に移出せらるる貨物並に地方消費、屑物處分等を合算する時は省内産額は六百萬担以上に達すべきを信するものなり而して其輸出總價格は三種合計二千四百二十二萬九千余兩にして之を銀換算すれば實に銀三千七百九十六萬七千余元に達し當港輸出入品中の第一位を占め來れり今其十三年中の輸出貨に對し本年六月(半年分)迄の輸出數量を掲げ兩年の比較に便すべし

山東落花生輸出統計(單位担)

十三年中	十四年六月迄
落花生(殼付)	三九七、四二七
落花生實	二、五五、四五五
落花生油	四九六、一〇〇
合計	三、三四八、〇三三

前記の輸出數量は單に其一端を知るに止まれども花生油の如き支那奧地々方にて行はるる舊式搾油法によれば漸く全數量の四割五分に止り勢ひ搾油の數量より其減率を數へざるべからず故に生油榨出前の原實數量を計算すれば百十七萬七千担の計算を得合計四百二十六萬八千八百九十二担の輸出を算すべし落花生の青島輸出は近年に於て破格の増進を示し殊に歐米各國の工業發達の好機に際し河れも東洋進出を試みたるより始まり遂に今日の盛況を現すに至りしは歐米各國の東洋進出に伴れ船便の利用自由となり工業用品の販賣を支那に需むると共に復船の歸り荷として山東の落花生に注目するもの漸次多きを加へたる結果にして十三年中の統計によれば日本行は殼付物に對して三萬四千八百担を輸出し稍各國と拮抗せしか花生實に於て僅かに十九萬四千九百四十九担の輸出を爲したるに過ぎず昨年と比較し約三萬担の減退を示し花生油に於ては謂ふに足らず今山東落花生實の各國輸地別表を掲ぐれば左の如し

大正十三年中	山東落花生實輸出貨向
地別表	數量
日本	一、四五、六〇〇
其他	三、二九二、四三三
合計	三、三四八、〇三三

計	寧	汕	廣	大	上	米	加	瑞	浦	濠	澳	伊	西	佛	白	和	獨	下	吳	埃	香	朝	
波	頭	東	連	海	國	陀	奈	典	州	州	國	國	利	牙	國	義	蘭	逸	抹	國	及	港	鮮
二五七九	一三〇〇	三三六六	六三三	八〇七六	四〇八七	一〇二	六七〇〇	一〇二	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇	二七〇〇

時事

支那案による關稅増徴の使途

十一月十九日の第二委員會席上に於て支那委員は關稅増徴の使途に對し支那案の提出を爲したるか今其大要を摘記すれば左の如し

(一)第一は釐金廢止の準備金であるが厘金は支那の主要財源で收入金は尠なくとも七千萬元に達し若し其補給方法が無ければ俄かに實行し難く就中征稅制度を廢止するには非常なる決心を要する所を語り内外商業上の障礙を排除する所以ともなり一利であるか其下には一害たる中央政府及地方財政上の損失ともなり其補填には是非附加増徴額より充當せなければならぬ

(二)無擔保の内外債の整理に充當するは支那政府の國際信用を維持するの趣旨からである一九二一年の冬より一九二二年に至るまでの債務總額は今日の如く莫大では無かつたが茲三年以内に不確實擔保の内外債が大増加をしたから其の債務を整理するは第二要務である

(三)建設事業の要素として道路の修築水利の疏通等は莫大の經費を要すべく其計劃の成功如何は支那の經濟及社會政策上に利する事大であつて各國共に商業上の利益を受ける事となるを以て附加稅増額利用の一となす

(四)政府の用途として第一に數ふべきは中央政府の財政困難の際其附加増徴の一部を其整理に使用すべき財源とすへきも惜むらくは其額の僅少なざるを遺憾とす

膠濟鐵路收入激減

(十一月)

奉軍の膠濟貨車徵發

膠濟鐵路の輸送力は不幸にも前年來再回こむる内亂の爲め自己軍隊輸送上強制徵發され其都度山東省民を脅威し貿易上に極度の打撃を及ぼせしか本年も亦直奉の戰雲急轉すると共に膠濟局長に對し十月二十日膠濟貨車の全部濟南集中を命じたる爲遂に二十一日より全く貨物の運送を停止するの止むなきに至り停止五日にして僅かに旅客の輸送を開始し貨車も亦幾分の發給を得たるも輸送力依然舊態を脱せず貨車は大部分津浦線に抑留せられ殘部を以て貨物輸送の任に當り居りしか瀛關車の返還は全く無く徵發貨車の返還容易ならず斯くては沿線輸送を不良ならしむるのみなるを思ひ濟南行貨物の發送を加減したる爲め濟南行貨物は十月二十五日以後其影響を潜め頗る不況を現はせしか此情勢は十一月中も繼續し相變らず貨車の配給行亘らす徒らに軍事に使用せらるるもの多く殊に今回王翰章氏の博山進出に際し多數の貨車を其方面に配置する等現在に於て全く戰事状態を脱する能わす掠奪處々に行はるる有様にして人心怖々たる今日貨車配給の充分を望むも其幾分たも運する能わす遂に十一月中の鐵路收入は昨年全期とは比較に爲らざる減退を示せり昨年十月、十一月の兩月は直

派の占有に歸し自由に貨車の徵發を行ひ客車は半減し貨車も亦四分の一に減退せる結果其收入減退せしは明かなる事實なりしか今年は更に極度の打撃を蒙り昨年災禍の慘狀を超越し窮狀其極に達せり

膠濟鐵路收入額 (十一月)

本年十一月收入	前年十一月收入
一、三三三、三三三	三、三三三、三三三
一、二七〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇
三、〇〇〇、〇〇〇	一、二七〇、〇〇〇
三、三三三、三三三	三、三三三、三三三

山東桐材輸出狀況

(十一月)

山東桐材の日本輸出は漸く其價值を日本市場に認めらるゝと共に其販路も逐年鞏固となり今や對日本輸出重要品中嶄然其頭角を現はすに至り引續き盛況を續け來りしか本年十月以降氣勢を進めつつありたる支那内亂は其濃度を加へ來り直軍は漸次山東に進出せる爲めに備ふべく山東督軍は膠濟貨車の軍事徵發を行ひし爲め一時膠濟鐵路全線の輸送を沮止したる事は本品商取引上にも相當の影響を現はし遂に下駄材は前月に比し千七百四十二噸減九太は七百九十一噸二百〇八噸と約半減の悲況に陥りたるは奉直内亂の影響にして山東の各界に亘りて延遷し山東在住商民並に財界に致命的打撃を與へたるは事實の證明する所本品輸出も亦其災を免るへからざりしは遺憾なり

今其輸出數量を掲げて前月と對照すれば左の如し

山東桐材輸出數量前月比較

九月中	十月中	十一月
四、六六六	三、三三三	二、二二二
一、一〇〇	二、二二二	三、三三三
三、三三三	四、四四四	五、五五五
六、六六六	七、七七七	八、八八八
九、九九九	一〇、〇〇〇	一一、一一一

○板 材

大 版	二、二	二、二	二、二
中 版	一、一	一、一	一、一
小 版	三、三	三、三	三、三
計	六、六	六、六	六、六

青島桐材組合臨時總會

桐材組合は十一月八日の議題に關し臨時總會を開催し林田組長外十三名出席委任狀六通合計二十名にて左記議題に就き協議せり

- 一、議題 桐材盜難豫防に買する件
- 二、桐材に附すべき刻印は豫め組合に届け置くこと
- 三、華商組合に協調し右同様刻印を附せしめ相互の聯絡を保つこと
- 四、日支商組合員は兼て盜難品と認めらるる桐材を取引せざるは勿論商取引をせんとするものを發見したる場合は直ちに日本組合に申告する事
- 五、日支商組合に於て商取引せられたる桐材にして若し盜難品と認めらるる場合は例へ其桐材が盜難品たる事を知らずして取引せられたる又は其品物か幾人の手を經て取引せられたるものと雖も盜難豫防の趣旨に基き其品物全部は日本組合に提供するものとす此場合組合は實情を調査の上入札に附し提供品の元價を提供者に返還す
- 六、右は一般組合員に徹底せしむる爲め署名捺印を徴す

青島桐材組合長外一同 署名

青島華商桐木業公會全體贊成承認決議

會長 張鳴鑾

副會長 臧克和

濟南に於ける棉花は他の諸物産と等しく時局の影響を受けて着しく不況の情況に在るも今棉花最近の數量及び價額を評述すれば(一)普通米棉は在荷三、六〇〇〇擔にして一擔の價額は五十一元二角五分見當(二)濱州棉は二、九〇〇〇擔にして一擔四十九元(三)威縣棉四、八〇〇〇擔にして一擔四十七元五角(四)御河棉一七、一〇〇〇擔にして一擔四十六元八角見當なり

銀塊並爲替

(自十一月廿三日)

月曜支那筋の買入三ポイント方上昇直三十二片十六分の三先三十二片を唱へたるが翌日は市場靜穩取引僅少相場は直先共に一点の降下を見たる以來引續き沈靜を持續し相場は木曜日迄保合ひなるが金曜日に至り支那筋の賣出に一点方下押し土曜日は市況鈍狀更に一点の下落を見たる直三十二片先三十一片八分の七

爲 替

月曜、十二月渡賣入三志一片八分の五、七十五弗八分の七、五十六兩に開始したるが支那人賣氣に市況稍強味を示し午後は同三志一片十六分の十一、七十六弗、五十五兩八分の七と各一ポイント見當の引締りを見たるも引際再び軟化して開始相場買入に引緩みなり

火曜、午前中投機大手筋の一月物五十五兩八分の七見當にて相當額の圓賣を行ひたるも市場を硬化するに至らず十二月渡賣入三志一片八分の五、七十五弗四分の三、五十六兩四分の一と鈍調裡に引けたる

水曜、支那人一月渡五十六兩十六分の三乃至五十六兩二分の一迄圓買に出でたるも市場は極めて靜穩に目立つた手合を見るに至らず午後此支政情の不安の報を齊して底意稍強化して引け一月渡賣入三志一片十六分の九、七十五弗八分の五、五十六兩

木曜、日米爲替の強調と磅貨輸出爲替の

